



スプラポ (旧松田土木事務所)

交流拠点は地域のイベント等で活用されているが、コワーキングスペースは

情報発信をして 利用促進を図る

A



回答 (町長)

(1) やまびこ館・寄農と

(2) やまびこ館・寄農と

(3) やまびこ館・寄農と

町長は他の公共団体に先んじて政策を立て、特に官民連携や、施設整備等は国の財源を積極的に活用されています。そこで次のことについて伺います。

- (1) コロナ禍のリモートワークに対応したやまびこ館、寄農と交流拠点施設
- (2) 設管理棟の利用状況及び指定管理の現状について
- (3) 創生推進拠点施設(旧松田土木)における民間事業者の利活用状況について



質問者
齋藤 永 議員



財産の活用状況等について



利用が期待されているやまびこ館

試験的な利用にとどまっている。コロナ禍の影響も減少しているため、効果的な情報発信を含めて利用促進に期待したい。

(2) 指定管理者から、700万円を納付頂いている。管理体制については、定例会議を通じ、把握に努める。

(3) 民間への貸し付け状況は無料の個所もあるが、14件で4376万1598円。ゴルフ場や事務所等に利用されている。

新松田駅周辺整備事業について



質問者
井上 栄一 議員



進行なのか、南口広場整備をどう進展させていくのか、お考えは。

A



駅前広場は 再開発事業と一体的に 整備

回答 (町長)

(1) 5年度で駅前広場の基本設計、都市計画決定に向け県との協議・調整、県警との交通協議を行い、都市計画法の協議を完了する予定。

鉄道事業者の再開発組

合への参加は、小田急とは協定を締結済み、JR東海は交渉中で5月に回答済み。

(2) 駅前広場整備は、商業・住宅・公益機能等の一体的な整備が求められているため、再開発事業により一体的に整備する。小田急所有の駅前広場用地は寄付をお願いしてあるがまだ未確定。再開発事業で広場用地は、権利変換用地として対応か。

(3) 南口駅前広場整備は、小田原方面バス路線など、北口・南口が一体的な機能配置を考えている。南口駅前広場整備事業も、早期完成を目指す。



駅周辺事業の計画・推進
駅前広場の整備
駅周辺事業推進担当室

このページは、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。